



鈴木 務 議員

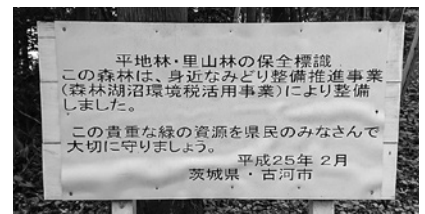
環境問題について

問 地球温暖化は確実に進行している。最大の原因である温室効果ガスは二酸化炭素（CO₂）が76%を占め、エネルギーをつくるときに多く発生する。地球温暖化の防止には私たち一人一人の取り組み意識がとても大切である。家庭や事務所の中でもエネルギーの消費を抑えることでCO₂の排出量を削減できる。①古河市環境基本計画について伺う。さらに、②身近なみどり

整備推進事業とはどのような施策なのか③可燃ごみ（生ごみ）の減量化対策④一般ごみ不法投棄対策について伺う。

答（生活安全部長） ①平成23年度から10年間を計画期間とし、自然環境等5つの環境目標について取り組んでいる。各取り組みをAからEで評価し、188項目のうち147項目が合格点のC以上である。未達成の項目は令和3年度からの新しい環境基本計画に引き継ぎ、SDGs^(※)も取り入れ、さらなる環境施策の充実に努めていきたい。③生ごみ処理機購入費の補助を行っており、家庭ごみの自家処理を促進している。今後も広報等で周知を行い、ごみの減量化に取り組んでいきたい。④不法投棄は

人間の道徳性によるところもある。法で対処できる部分は厳正に対処したい。また、定期的なパトロールを行っているが、監視の目等市民の皆さまの力もお借りしていければと考えている。
答（産業部長） ②古河市森林整備計画区域内の荒廃した平地林等を県の森林湖沼環境税を活用し、地権者と市で森林保全に関する協定を結び実施する事業である。今後も補助制度等を活用し、平地林の健全な維持管理、保全に努めていきたい。



平地林・里山林の保全標識

※SDGs…「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。



鶴見 久美子 議員

新4号国道アクセス道路について

問 新4号国道アクセス道路は、地元地域、近隣の方々の期待の大きい道路である。現在の用地買収率と事業進捗率、農業用排水路へ排水される雨水対策の問題点について伺う。また、残っている用地の地権者への今後の対応と事業計画について伺う。

答（都市建設部長） 8月末現在の用地買収率は95.51%、事業進捗率は事業費ベースで64%、施

工割合による換算値ベースで22%である。道路雨水の排水は、関東・東北豪雨のような場合を除き、用排水路があふれることはないと認識しており、台風15号の際もあふれた痕跡はなかった。用地取得については、用地交渉が難航していた地権者とも今年に入り交渉ができた。引き続き残る用地の取得を進め、取得でき次第順次工事に着手し、早期完成に努めていきたい。

災害対策について

問 近年、異常気象のたびに各地で大きな被害が出ている。行政として、避難所の環境改善が大切である。市の避難所の状況について伺う。また常温で保存でき、お湯で溶かす必要がない

液体ミルクは、災害時の備蓄物資として必須だと考えるが、導入する考えはあるか伺う。

答（生活安全部長） 市では指定避難所を32カ所指定している。本年8月末時点での主食の備蓄率は約45%であるため、今後計画的に購入を進め、令和4年度には備蓄率を100%にしたい。

お湯を必要としない液体ミルクの導入は有効である。予算や数量、事業者との災害時の協定締結等、幅広く検討をしていきたい。

